

# 令和7(2025)年度 かわさき市民アンケート概要版

## 調査目的等

調査目的	市民の定住状況、市政に対する評価と要望などの継続的に行ってきた調査に加え、いくつかのテーマについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的に実施
調査経緯	昭和50（1975）年度から毎年1回実施していた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するために、調査回数を年2回に拡充し、名称を変更して平成18年（2006）年度から実施することとしたもの
調査地域	川崎市全域
調査対象	川崎市在住の満18歳以上の個人

## 調査方法等

	第1回アンケート	第2回アンケート
調査方法	インターネット調査	郵送調査
標本抽出	インターネットモニター登録者から抽出	住民基本台帳からの層化無作為抽出
標本数	1,500標本回収まで	3,000標本
有効回収数	1,500	1,592
有効回収率		53.1%
調査期間	令和7年8月22日（金）から 9月5日（金）まで	令和7年11月11日（火）から 12月19日（金）まで
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市の緑について</li> <li>・川崎市の観光振興について</li> <li>・特別市（特別自治市）について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住状況について</li> <li>・生活環境の評価について</li> <li>・関心ごとと行動範囲について</li> <li>・市政に対する評価と要望について</li> <li>・川崎市の広報（市政だより）について</li> <li>・これからのお葬式のあり方や火葬後の灰等の取り扱いについて</li> </ul>

※表中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100にならない場合や、複数の項目の数値の合計が本文中の数値と一致しない場合があります。

※当冊子は、調査結果の一部を抜粋したものです。各設問の番号は、調査票と同じ設問番号を記載しています。

※インターネット調査は、対象者を母集団から無作為抽出しているものではないため、母集団推定ができない調査方法であり、回答傾向から課題を発見するプリテストに適した調査方法です。

# 1 川崎市の緑について

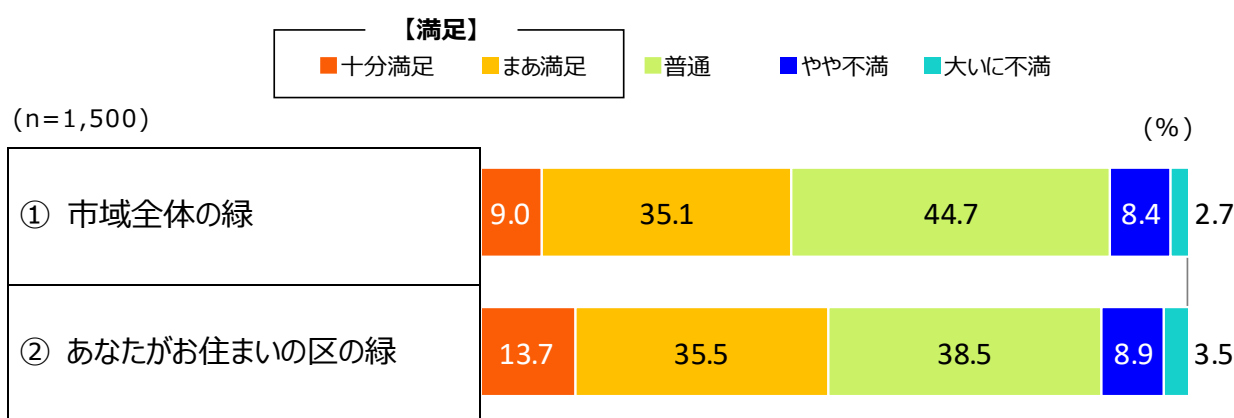
## 1 川崎市の緑に対する満足度

Q 1. あなたは、川崎市の緑に満足していますか。

- ① 市域全体の緑
- ② あなたがお住まいの区の緑

「十分満足」と「まあまあ満足」を合計した【満足】は「市域全体の緑」では44.1%、「あなたがお住まいの区の緑」では49.1%となっている。

【図表 1】川崎市の緑に対する満足度

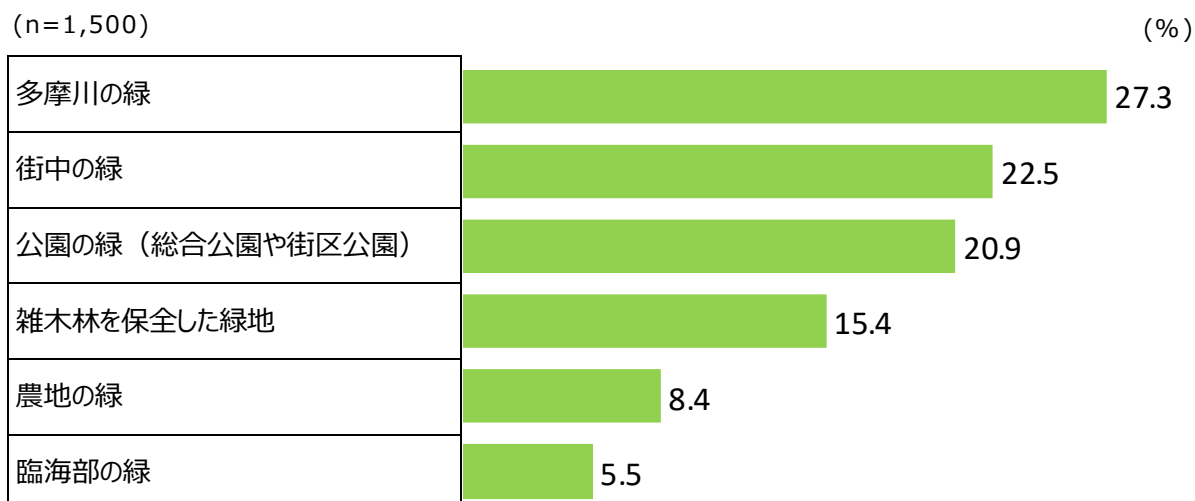


## 2 保全した方がいと思う緑

Q 2. 川崎市には多様な緑があります。あなたは以下のどのような緑を最も保全した方がいと思いますか。

「多摩川の緑」が27.3%で最も高く、次いで「街中の緑」(22.5%)、「公園の緑(総合公園や街区公園)」(20.9%)、「雑木林を保全した緑地」(15.4%)と続いている。

【図表 2】保全した方がいと思う緑



### 3 緑化や自然保全に関するボランティア活動について

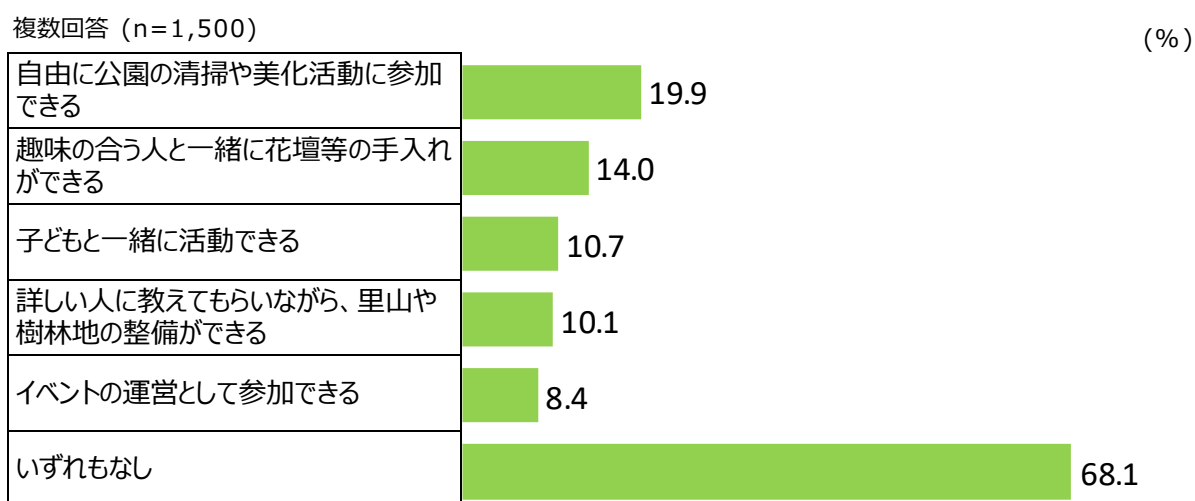
Q 5. これまで川崎市では、緑化や自然保全に参加できる多彩なボランティア活動を展開してきました。それらの中で知っている活動はありますか。また、今後参加してみたい活動はありますか。

- ① 知っているボランティア活動
- ② 今後参加してみたい活動

#### ① 知っているボランティア活動

知っているボランティア活動では、「自由に公園の清掃や美化活動に参加できる」が19.9%で最も高く、次いで「趣味の合う人と一緒に花壇等の手入れができる」(14.0%)、「子どもと一緒に活動できる」(10.7%)と続いている。一方で、「いずれもなし」(68.1%)が7割近くを占めた。

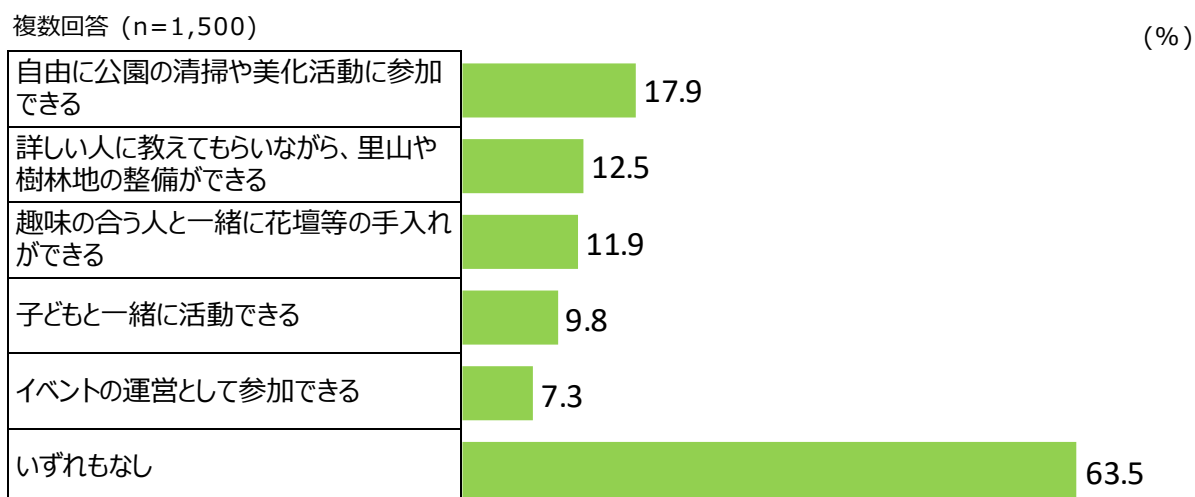
【図表 3】 知っているボランティア活動（複数回答）



#### ② 今後参加してみたいボランティア活動

今後参加してみたいボランティア活動では、「自由に公園の清掃や美化活動に参加できる」が17.9%で最も高く、次いで「詳しい人に教えてもらいながら、里山や樹林地の整備ができる」(12.5%)、「趣味の合う人と一緒に花壇等の手入れができる」(11.9%)と続いている。一方で、「いずれもなし」(63.5%)が6割を上回った。

【図表 4】 今後参加してみたいボランティア活動（複数回答）



## 2 川崎市の観光振興について

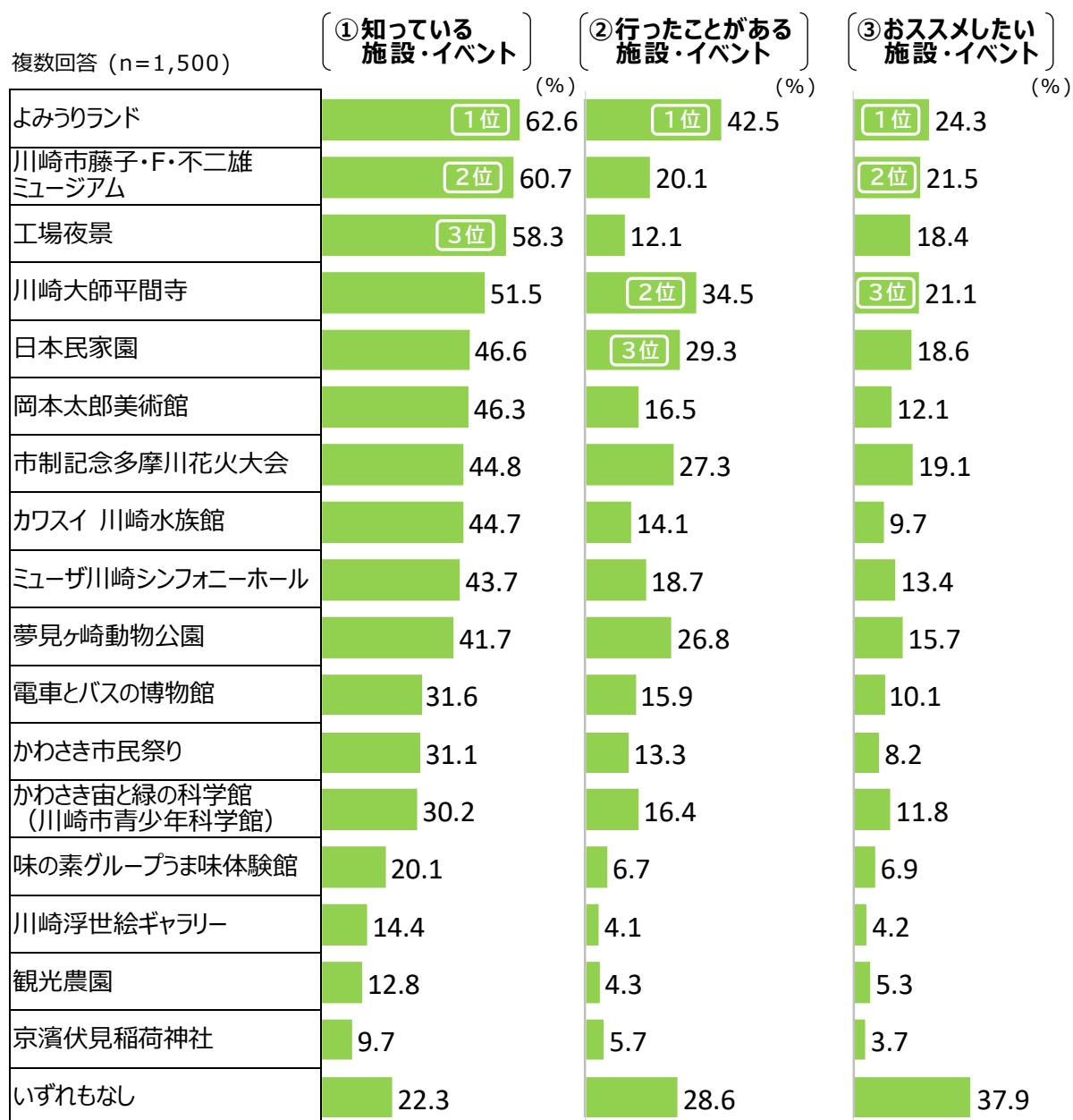
### 1 川崎市の施設・イベント

Q10. 川崎市内にある多様な観光資源について、質問にお答えください。

- ① 知っている施設・イベントを選んでください
- ② 行ったことがある施設・イベントを選んでください
- ③ ほかの人におススメしたい施設・イベントを選んでください

【知っている施設・イベント】、【行ったことがある施設・イベント】、【おススメしたい施設・イベント】いずれも「よみうりランド」が最も高く、2位以下は、【知っている施設・イベント】については2位が「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、3位が「工場夜景」、【行ったことがある施設・イベント】については2位が「川崎大師平間寺」、3位が「日本民家園」、【おススメしたい施設・イベント】については2位が「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」、3位が「川崎大師平間寺」となっている。

【図表 5】川崎市内の施設・イベントの認知・来訪経験・推奨意向（複数回答）



## 2 おススメしたい川崎の魅力

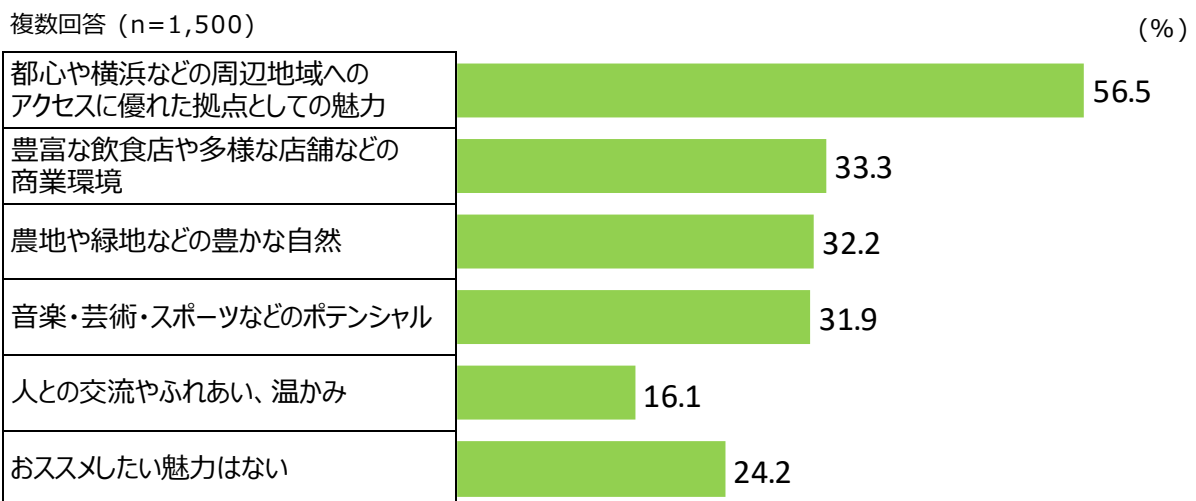
Q11. 以下の中で、あなたが友人・知人などにおススメしたい川崎の魅力はなんですか。

- ① 魅力だと思うこと
- ② (①で選んだものの中で) 一番のおススメ

### ① 魅力だと思うこと

魅力だと思うことは、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」が56.5%で最も高く、次いで「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」(33.3%)、「農地や緑地などの豊かな自然」(32.2%)、「音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル」(31.9%)と続いている。

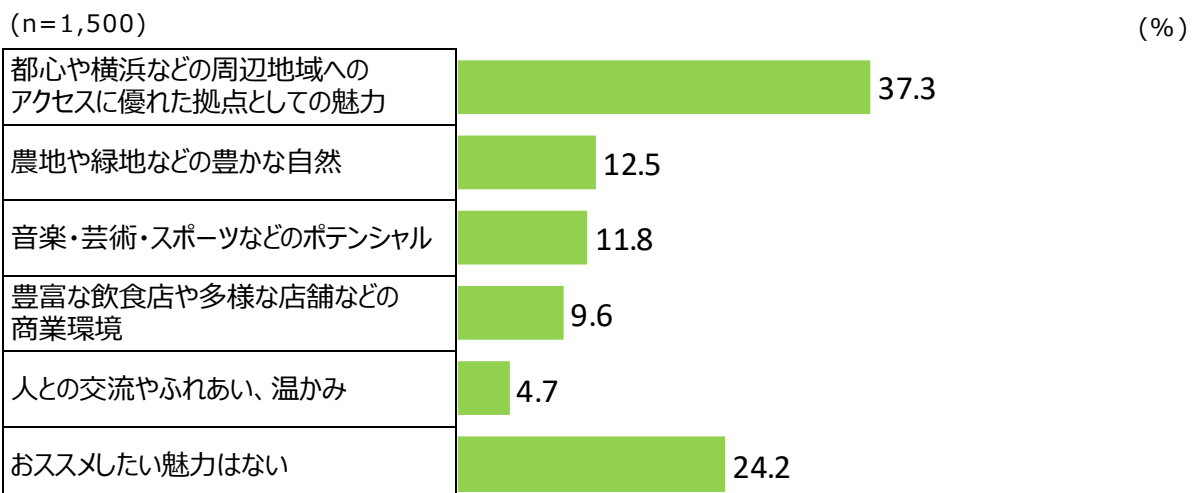
【図表 6】魅力だと思うこと (複数回答)



### ② 一番のおススメ

一番のおススメは、「都心や横浜などの周辺地域へのアクセスに優れた拠点としての魅力」が37.3%で最も高く、次いで「農地や緑地などの豊かな自然」(12.5%)、「音楽・芸術・スポーツなどのポテンシャル」(11.8%)、「豊富な飲食店や多様な店舗などの商業環境」(9.6%)と続いている。

【図表 7】一番のおススメ

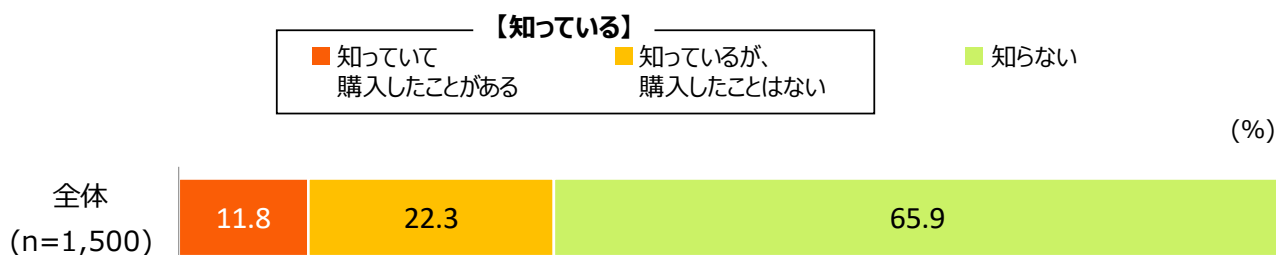


### 3 「かわさき名産品」認知・購入状況

Q16. 川崎市では市内の生産品をPRするため「かわさき名産品」という認定制度を実施しています。あなたは「かわさき名産品」を知っていますか？

「知らない」が65.9%で最も高く、次いで「知っているが、購入したことはない」(22.3%)、「知っている、購入したことがある」(11.8%)となっており、「知っているが、購入したことはない」と「知っている、購入したことがある」を合計した【知っている】は34.1%であった。

【図表 8】「かわさき名産品」認知・購入状況

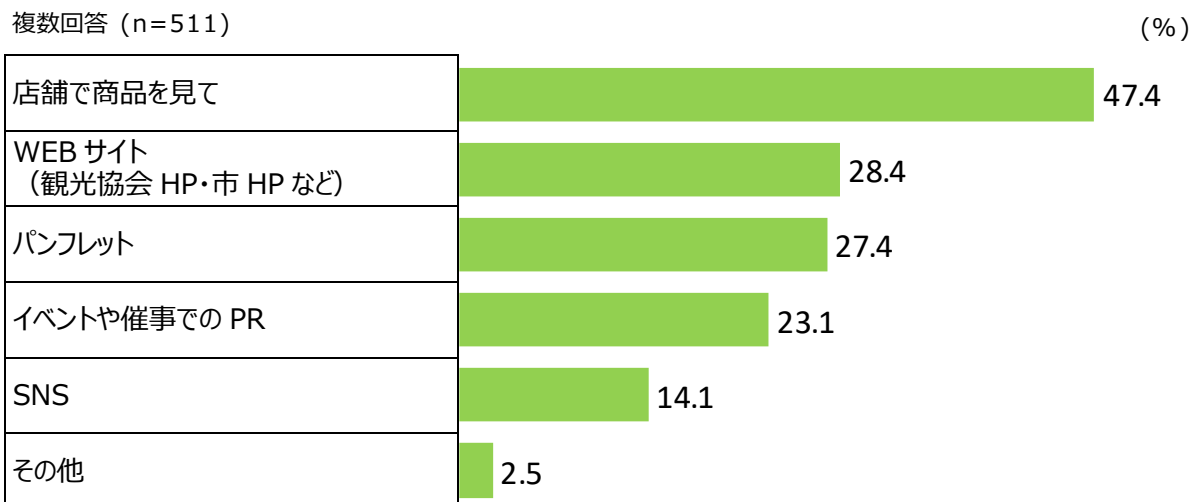


### 4 「かわさき名産品」認知経路

Q16-1. 「かわさき名産品」を知ったきっかけは何ですか？

「かわさき名産品」について、「知っているが、購入したことはない」と「知っている、購入したことがある」と回答した人にその認知経路について尋ねたところ、「店舗で商品を見て」が47.4%で最も高く、次いで「WEBサイト(観光協会HP・市HPなど)」(28.4%)、「パンフレット」(27.4%)、「イベントや催事でのPR」(23.1%)と続いている。

【図表 9】「かわさき名産品」認知経路(複数回答)



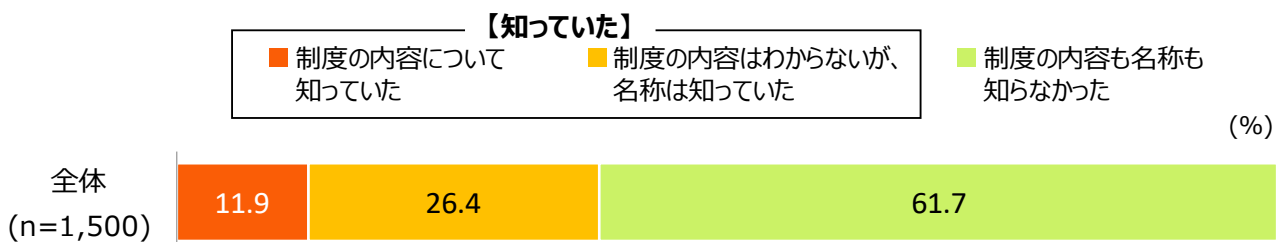
### 3 特別市(特別自治市)について

#### 1 「特別市(特別自治市)」の認知状況

Q17. 川崎市は、県の区域外となり、権限と財源を市に一本化する「特別市(特別自治市)」制度の実現を目指しています。  
あなたは、「特別市(特別自治市)」制度を知っていましたか。

「制度の内容について知っていた」(11.9%)と「制度の内容はわからないが、名称は知っていた」(26.4%)を合計した【知っていた】は38.3%であった。

【図表 10】「特別市(特別自治市)」の認知状況

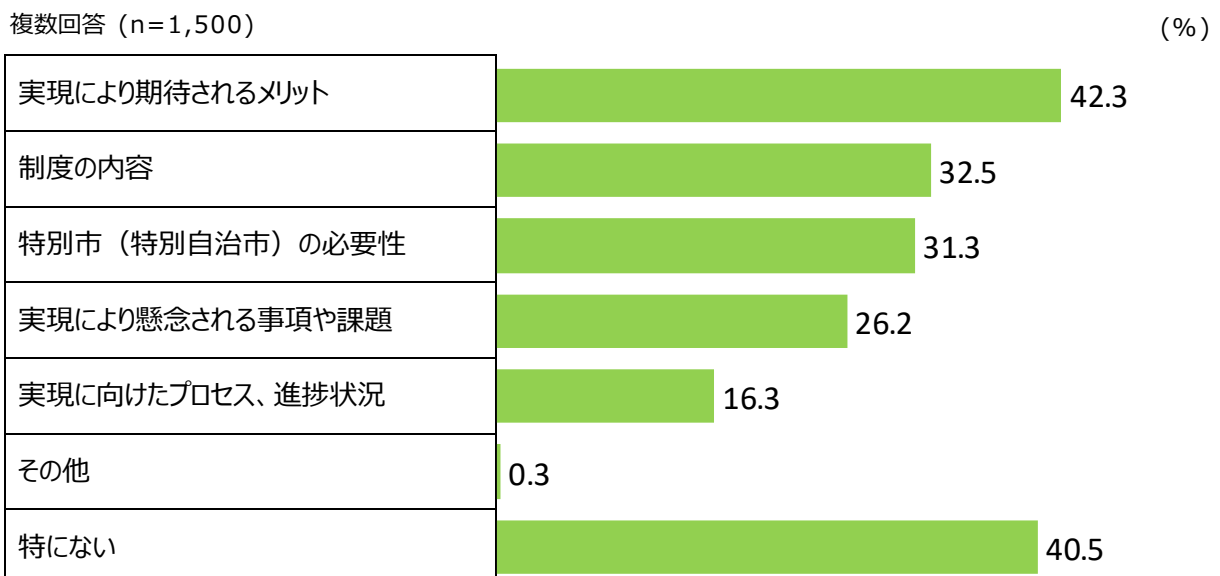


#### 2 「特別市(特別自治市)」について知りたいこと

Q19. 「特別市(特別自治市)」について、知りたいことを教えてください。

「実現により期待されるメリット」が42.3%で最も高く、次いで「制度の内容」(32.5%)、「特別市(特別自治市)の必要性」(31.3%)と続いている。一方で、「特にない」(40.5%)が4割を占めている。

【図表 11】「特別市(特別自治市)」について知りたいこと(複数回答)

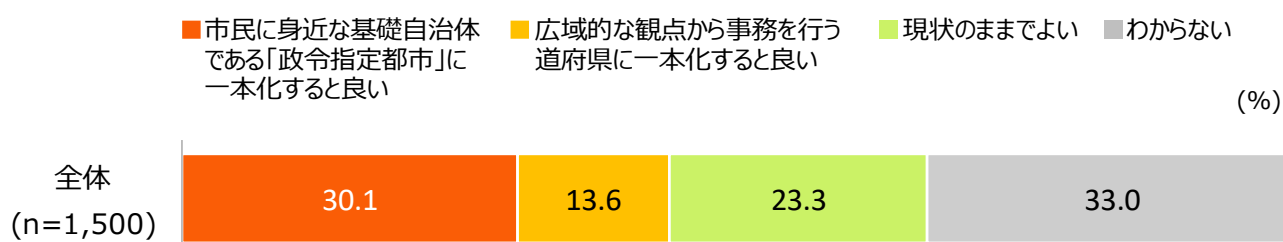


### 3 取組や事務の一本化について

Q21. 「政令指定都市」と道府県で同じような内容の取組や事務を実施していることがあります。今後、このような事務をどちらか一方にまとめるとしたら、あなたはどちらに一本化するとよいと思いますか。

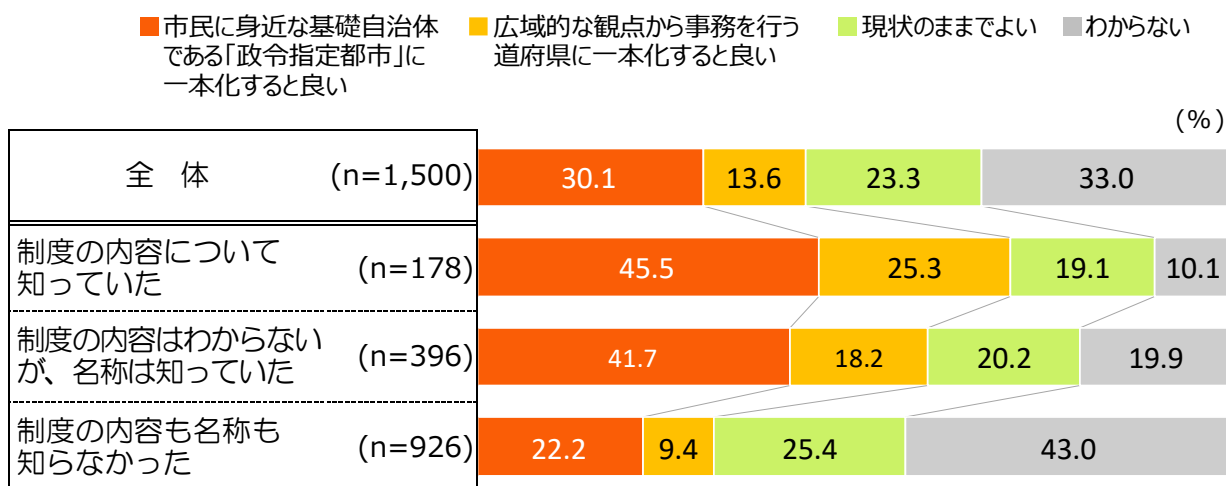
「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」(30.1%)、「現状のままでよい」(23.3%)、「広域的な観点から事務を行う道府県に一本化すると良い」(13.6%)と続いている。一方、「わからない」(33.0%)が最も高くなっている。

【図表 12】取組や事務の一本化について



「特別市（特別自治市）」の認知状況別に見ると、制度について知っている人ほど「市民に身近な基礎自治体である『政令指定都市』に一本化すると良い」の割合が高くなっており、「制度の内容について知っていた」と回答した人（45.5%）が最も高い。

【図表 13】取組や事務の一本化について（「特別市（特別自治市）」の認知状況別）



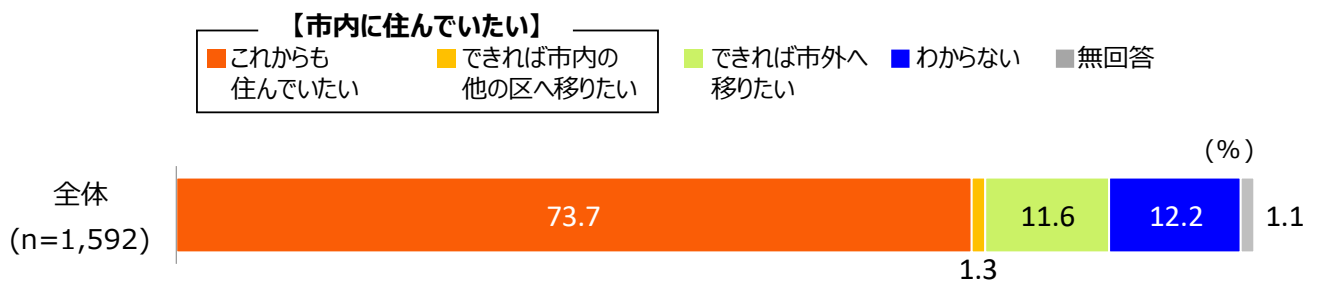
## 4 定住状況について

### 1 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

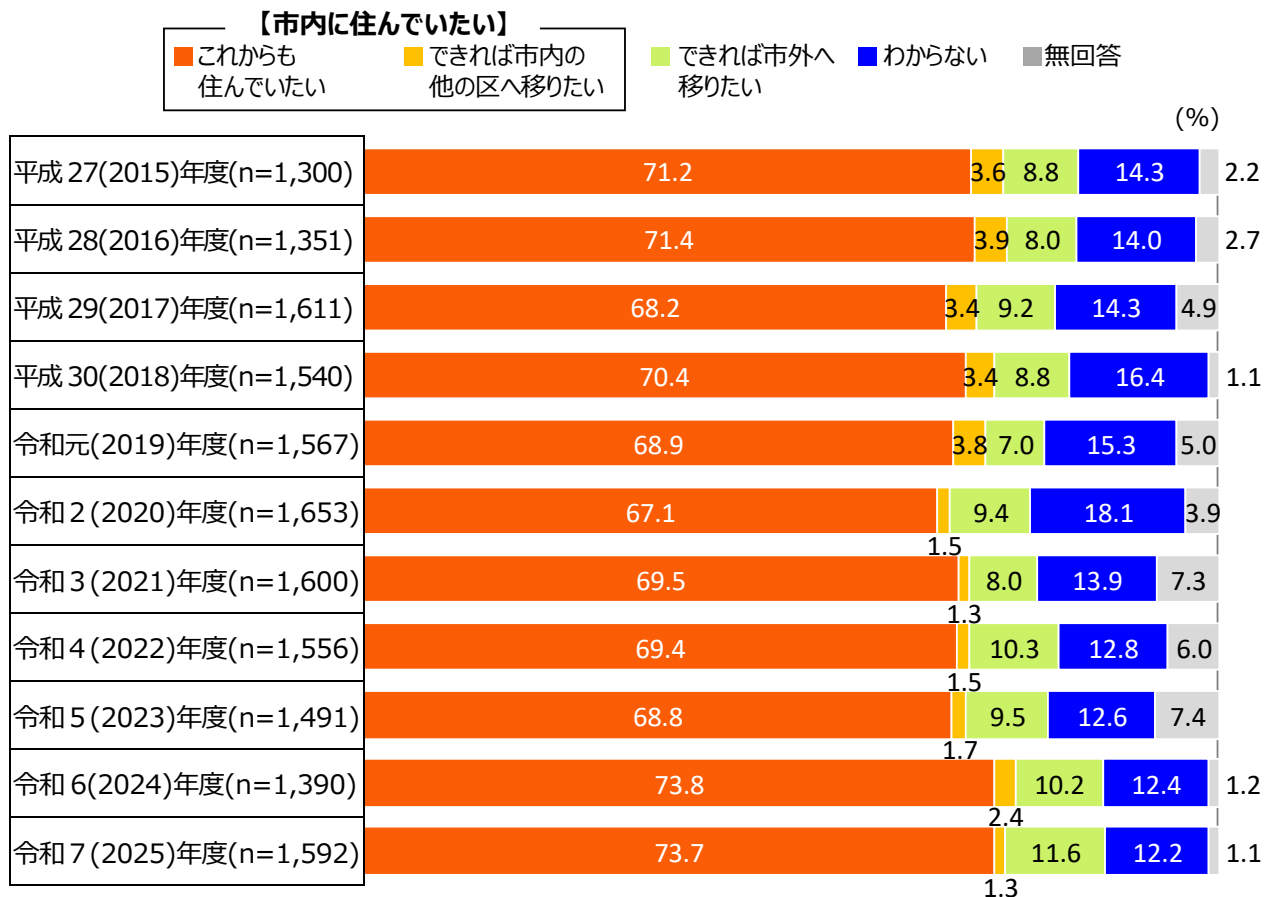
「これからも住んでいたい」（73.7%）と「できれば市内の他の区へ移りたい」（1.3%）を合計した【市内に住んでいたい】は75.1%、「できれば市外へ移りたい」は11.6%であった。

【図表 14】定住意向



定住意向については、昨年度（令和6年度）から大きな変化は見られない。

【図表 15】定住意向（経年比較）



※令和2年度までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施

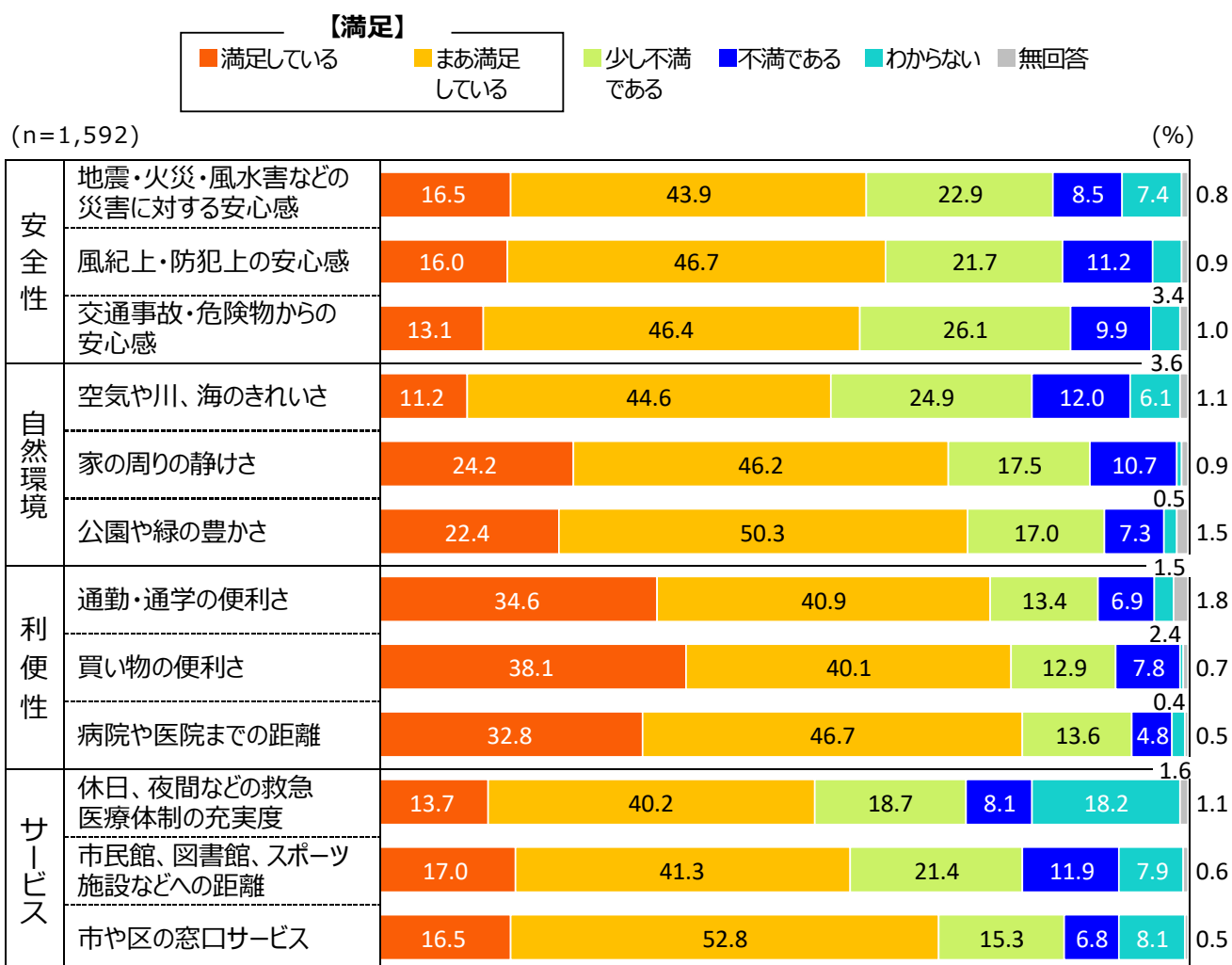
## 5 生活環境の評価について

### 1 生活環境の満足度

問5. お住まいの周りの生活環境についていかがですか。あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目が高く、「病院や医院までの距離」(79.5%)、「買い物の便利さ」(78.1%)、「通勤・通学の便利さ」(75.5%)、いずれも7割台後半となっている。一方で、『サービス』の項目は3項目中「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」(58.2%)と「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(53.9%)の2項目で【満足】が5割台となっている。

【図表 16】生活環境の満足度

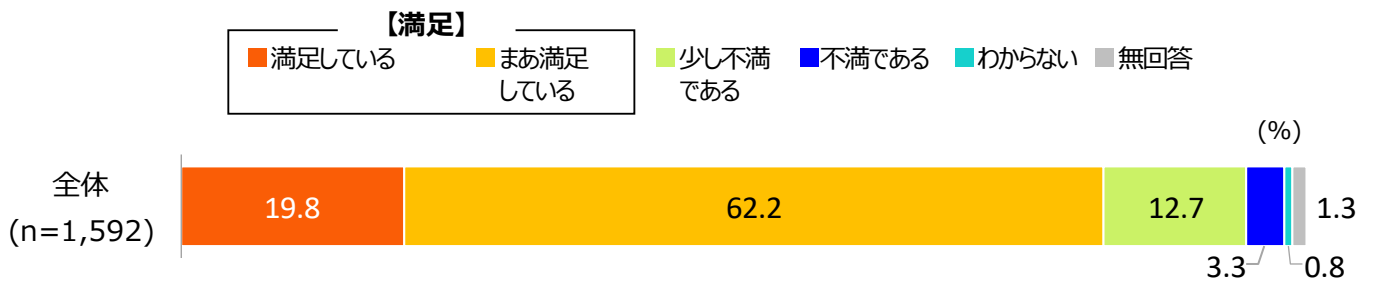


## 2 総合的な生活環境の満足度

問6. あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

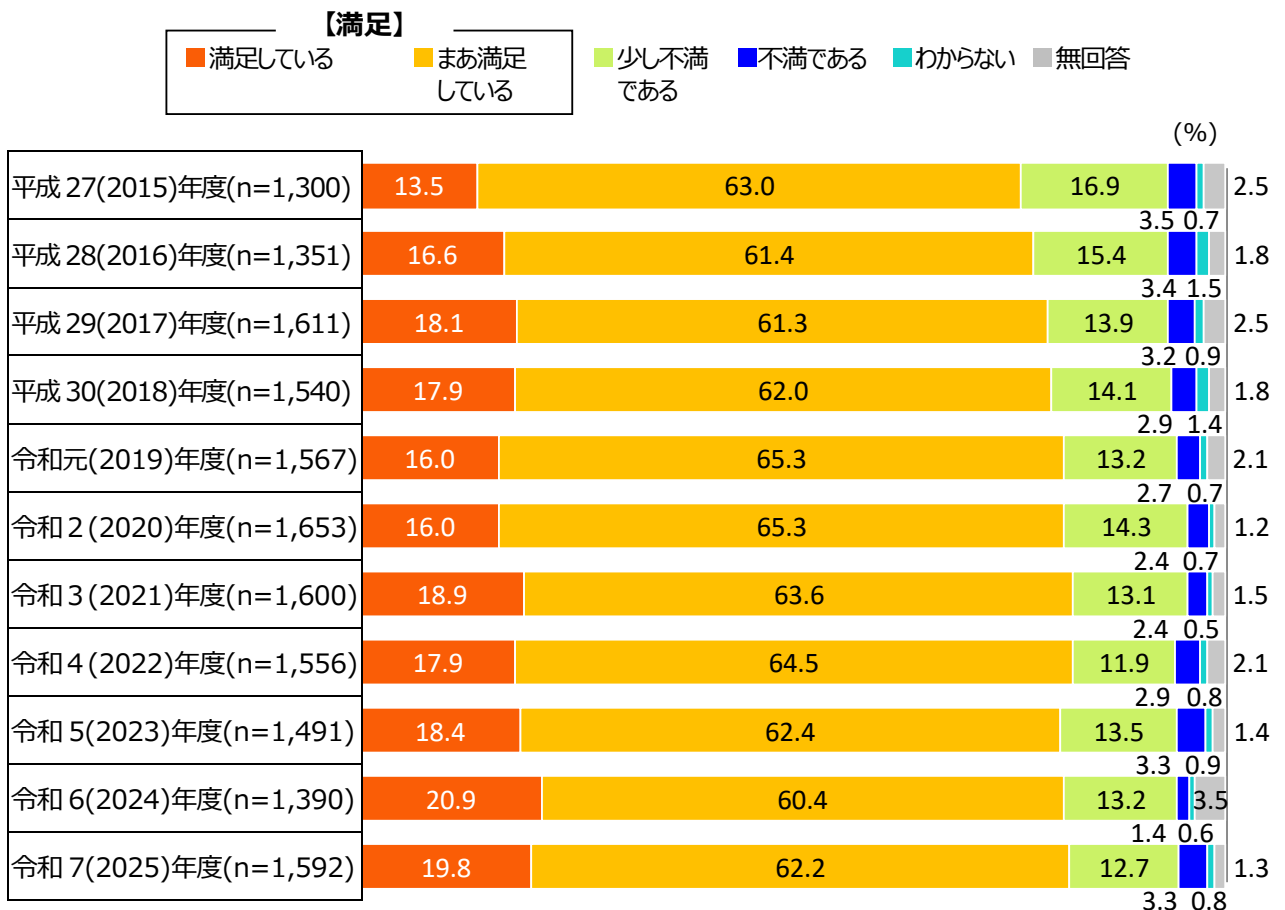
「満足している」(19.8%)と「まあ満足している」(62.2%)を合計した【満足】は82.0%であった。

【図表 17】 総合的な生活環境の満足度



過去の推移では、【満足】は令和元(2019)年度以降8割台前半で推移しているが、10年前(平成27年度)と比較すると5.5ポイントの増加となっている。

【図表 18】 総合的な生活環境の満足度(経年比較)



## 6 市政に対する評価と要望について

### 1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

「日常のごみ収集やリサイクル」が51.9%で最も高く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(29.6%)、「水道水の安定供給」(29.1%)と続いている。

【図表 19】 市政の仕事でよくやっていると思うこと《上位 25 項目》(複数回答)

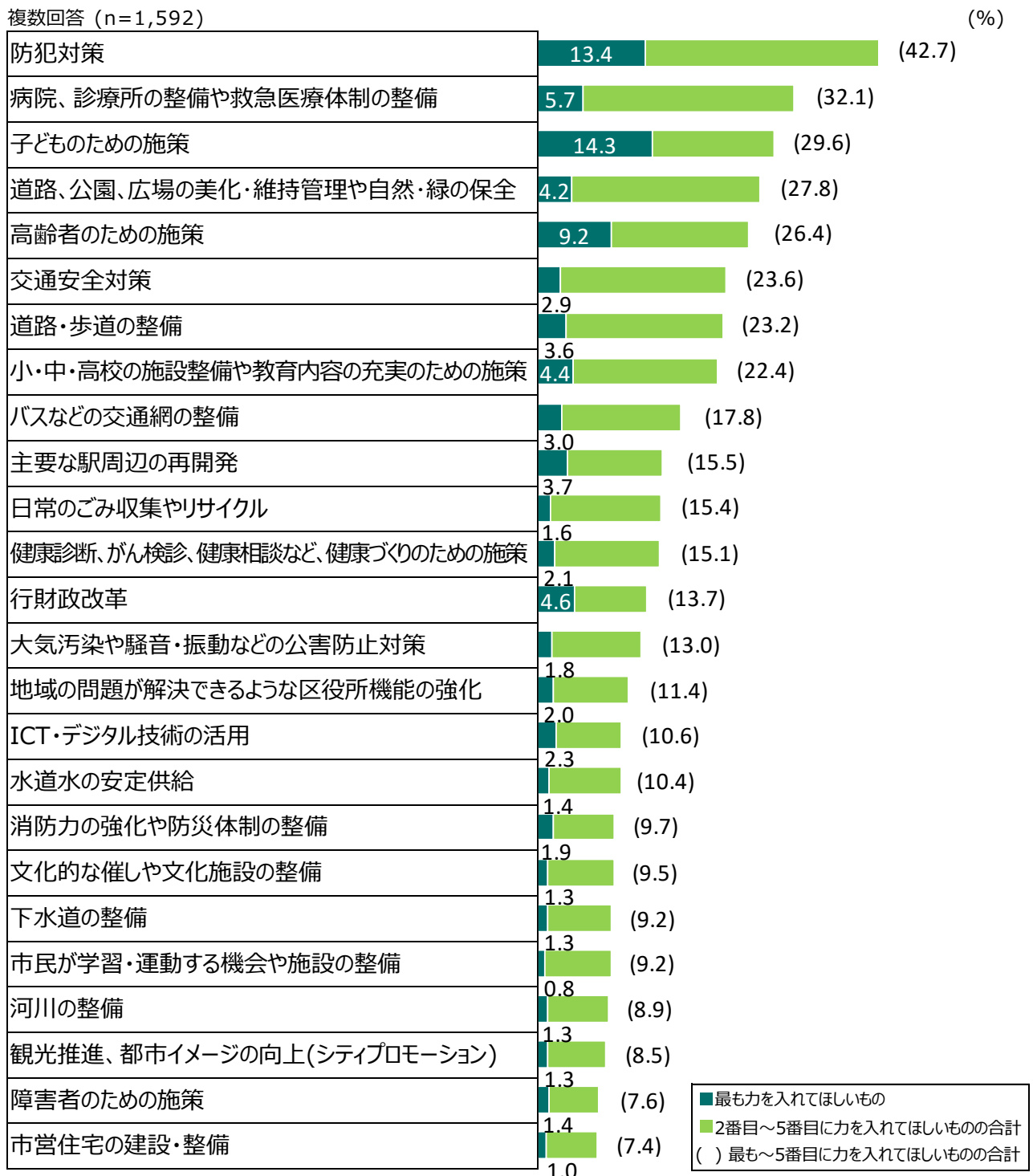


## 2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問 10. 問 9 の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。最も力を入れてほしいものから、順に 5 つ選んでください。

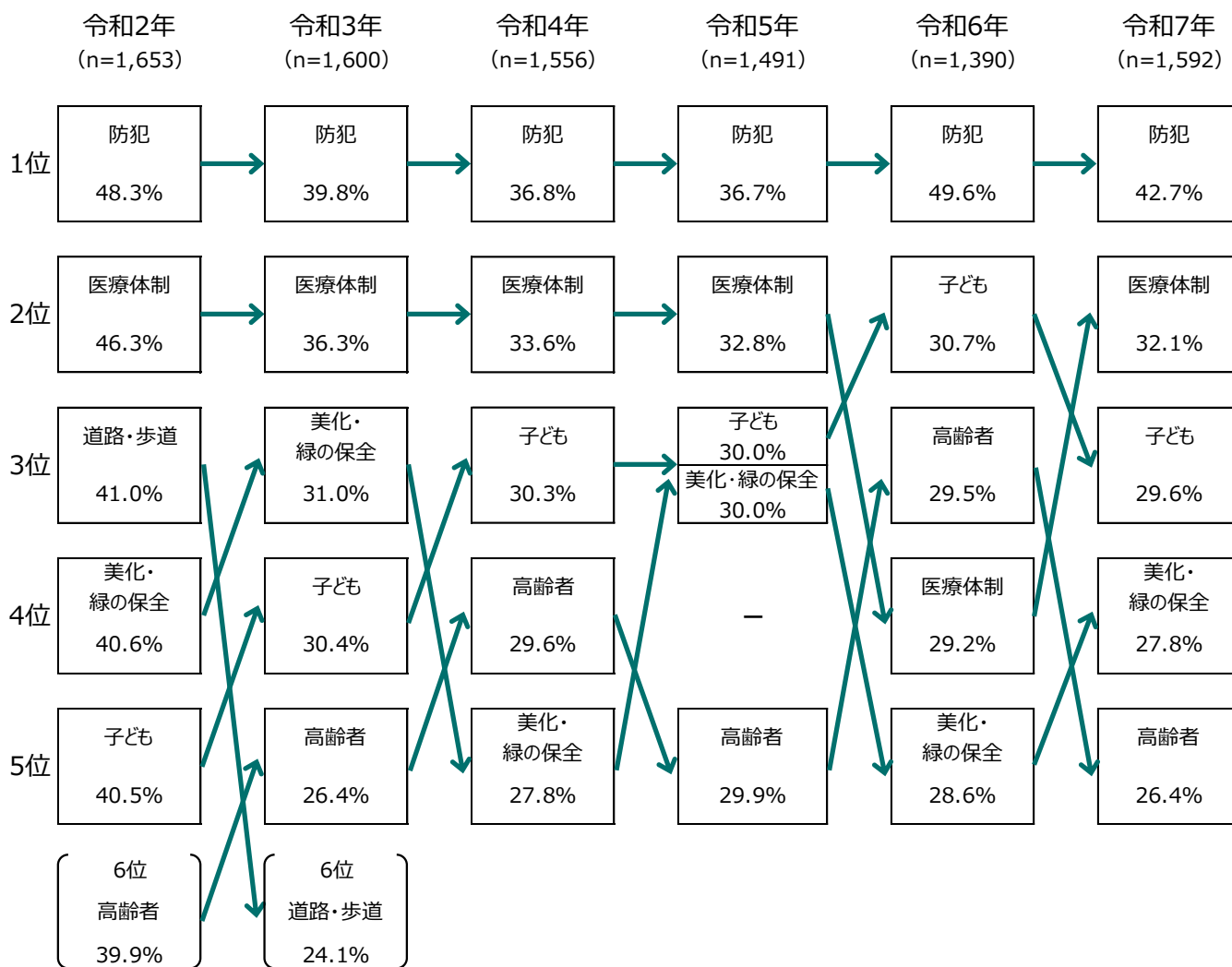
「最も力を入れてほしいもの」～「5 番目に力を入れてほしいもの」の合計は、「防犯対策」が 42.7% で最も高く、次いで「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(32.1%)、「子どものための施策」(29.6%) と続いている。なお、「最も力を入れてほしいもの」だけで見た場合は、第 1 位が「子どものための施策」(14.3%)、第 2 位が「防犯対策」(13.4%)、第 3 位が「高齢者のための施策」(9.2%) となっている。

【図表 20】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと《上位 25 項目》(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「防犯対策」は全て1位で、上位5項目は令和3年度以降同じ項目となっているが、今回は「医療体制」が4位から2位へ、「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」が5位から4位へと順位を上げている。

【図表 21】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）  
（過去の調査の上位5項目推移）



※令和2年度までは選択肢に制限を設けない複数回答にて実施

### 3 施策や事業の総合的な満足度

問 11. あなたは、川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

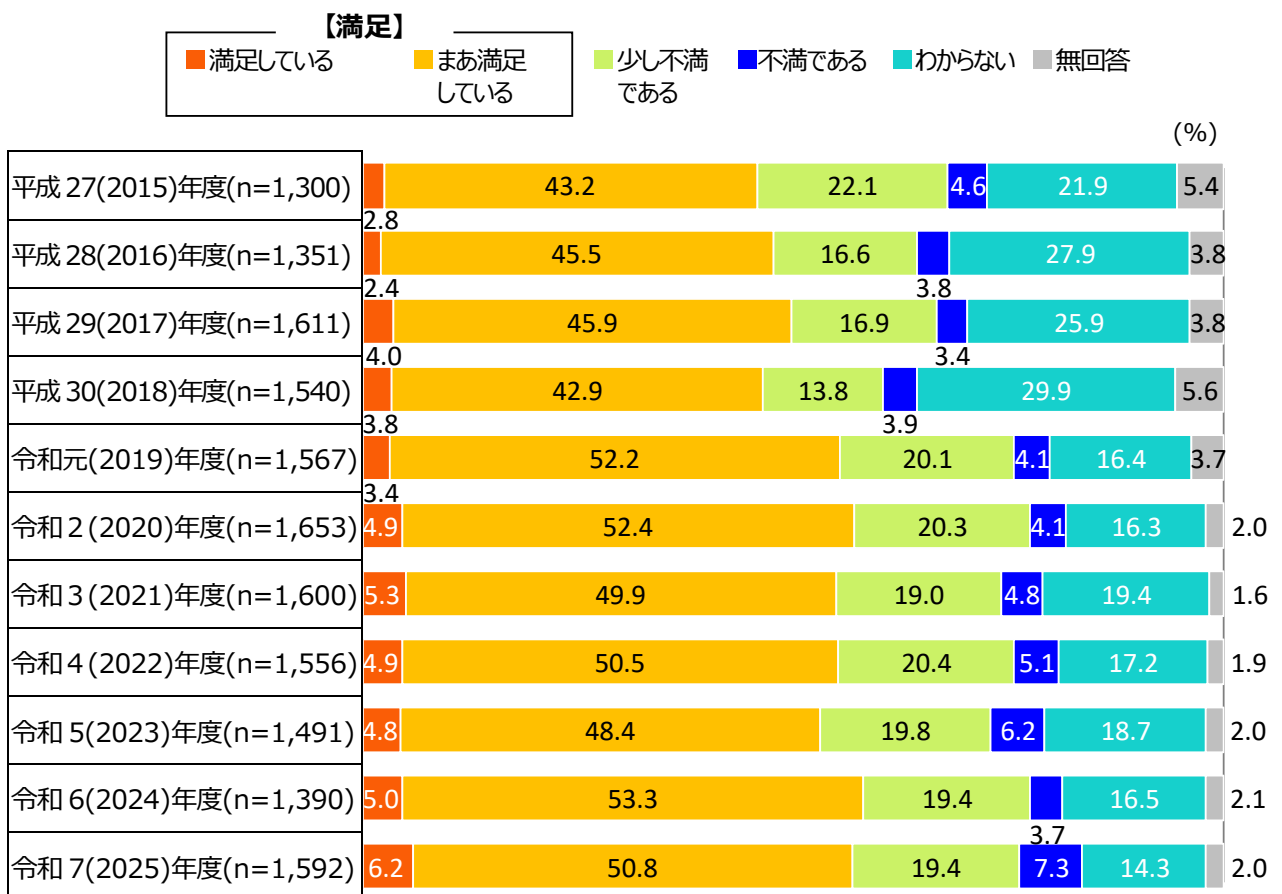
「満足している」(6.2%)と「まあ満足している」(50.8%)を合計した【満足】は56.9%であった。

【図表 22】 施策や事業の総合的な満足度



過去の推移を見ると、【満足】は令和元(2019)年度以降、令和5(2023)年度に若干下がったものの、ほぼ横ばいで推移している。

【図表 23】 施策や事業の総合的な満足度(経年比較)



## 7 川崎市の広報(市政だより)について

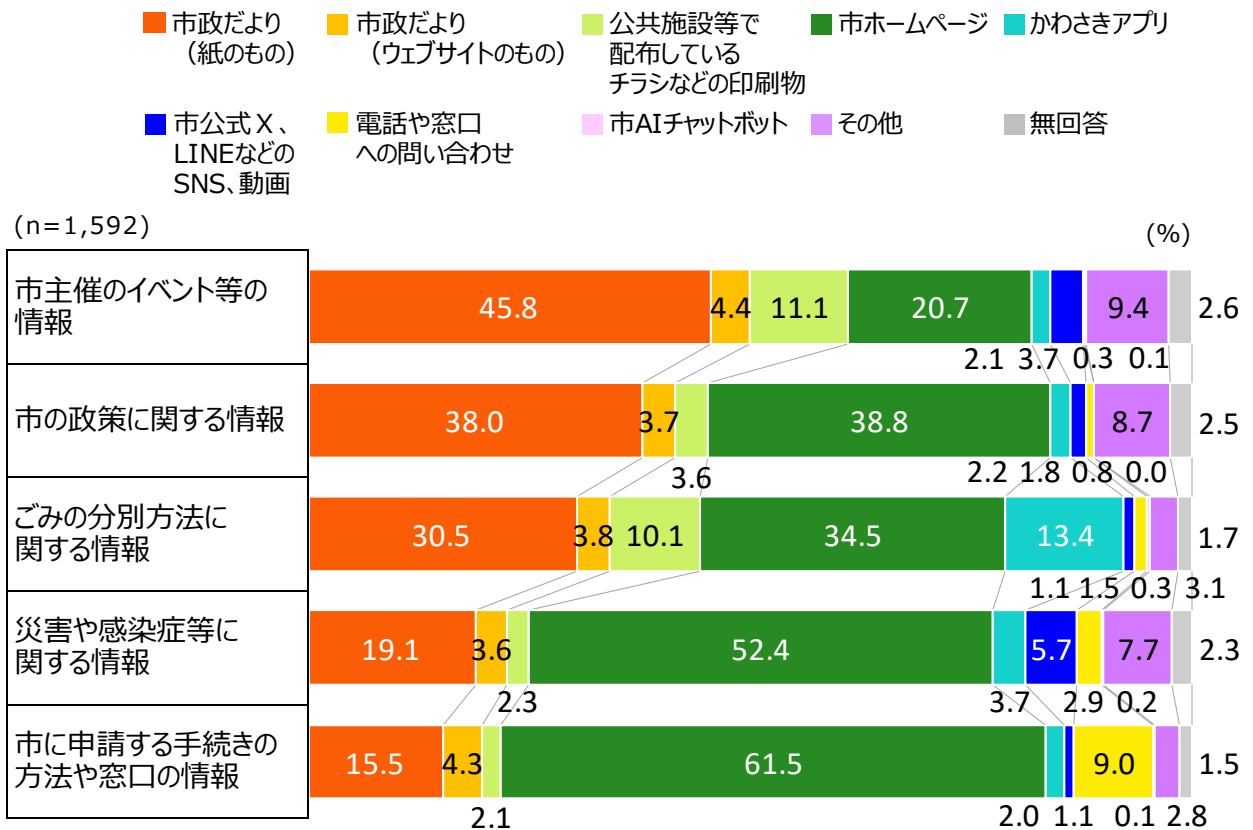
### 1 川崎市の情報の入手方法

問 12. 川崎市の情報を得たいときに、どのような方法で入手していますか。  
それぞれの項目ごとに、最もあてはまる媒体を1つずつ選んでください。

市主催のイベント等の情報（コンサートや講座など）の入手方法は、「市政だより（紙のもの）」（45.8%）が最も高く、その他の項目では「市ホームページ」が最も高くなっている。

また、「公共施設で配布しているチラシなどの印刷物」は「市主催のイベント等の情報（コンサートや講座など）」と「ごみの分別方法に関する情報（ゴミの分別、排出方法など）」で1割を超えて高く、「かわさきアプリ」は「ごみの分別方法に関する情報（ゴミの分別、排出方法など）」で13.4%と高くなっている。「電話や窓口への問合せ」は「市に申請する手続きの方法や窓口の情報（住民票の交付や福祉制度など）」で9.0%と高くなっている。

(図表 24) 川崎市の情報の入手方法

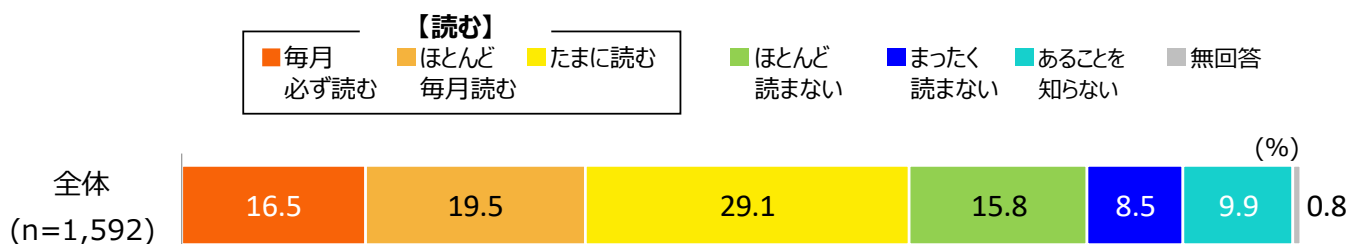


## 2 市政だよりの閲読状況

問 13. 市政だよりについて、うかがいます。あなたは毎月発行している市政だよりをどれくらいの頻度で読んでいますか。

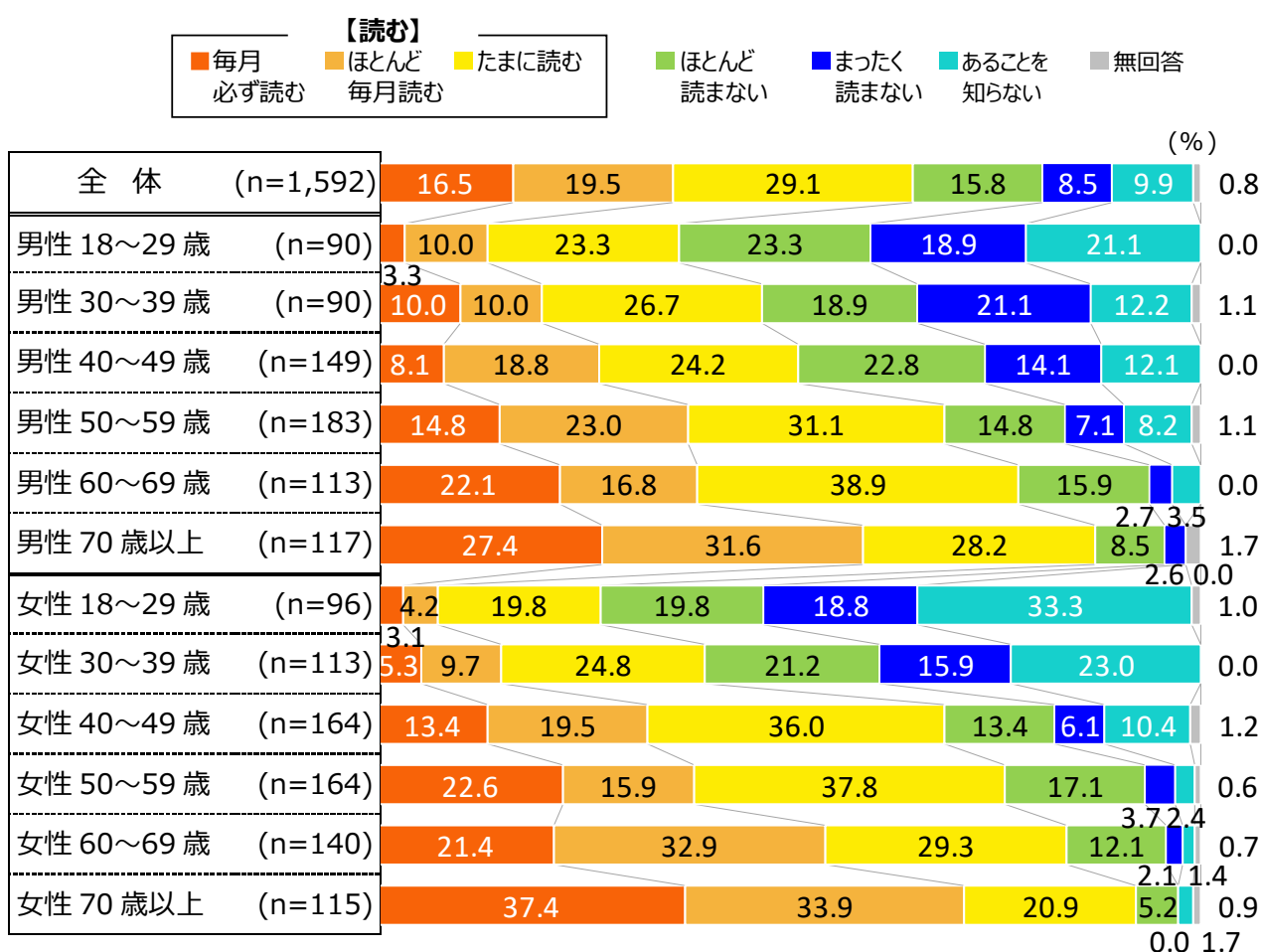
「たまに読む」(29.1%)が最も高く、「毎月必ず読む」(16.5%)、「ほとんど毎月読む」(19.5%)と合計した【読む】は65.1%であった。

【図表 25】 市政だよりの閲読状況



性／年齢別に見ると、【読む】(「毎月必ず読む」、「ほとんど毎月読む」、「たまに読む」の合計)の割合は、男女ともにおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。一方で、「あることを知らない」はおおむね年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 26】 市政だよりの閲読状況 (性／年齢別)



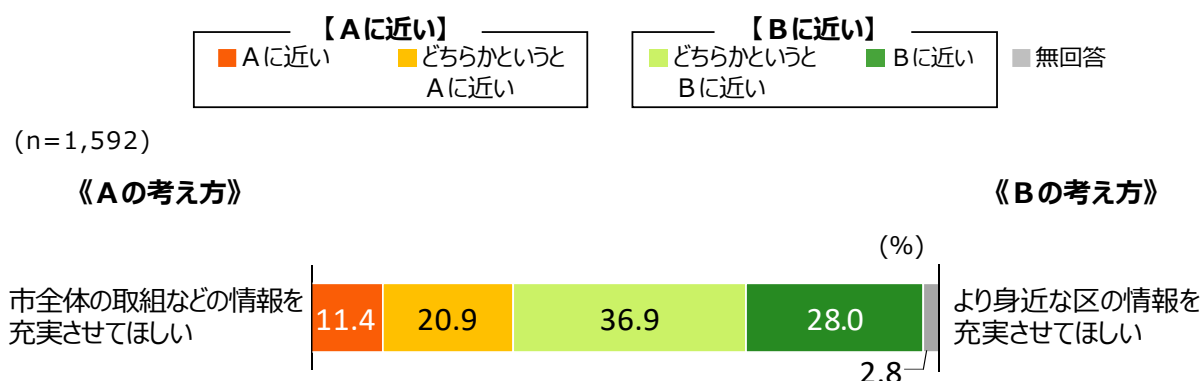
### 3 「市政だより」についての考え

問 17. 市政だよりについて、AとBの考え方でどちらの方があなたのお考えに近いと思われますか。それぞれの項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- ① A : 市全体の取組などの情報を充実させてほしい
- B : より身近な区の情報を充実させてほしい

【Bに近い】が64.9%と、「より身近な区の情報を充実させてほしい」という考え方に近いと回答した割合の方が高かった。

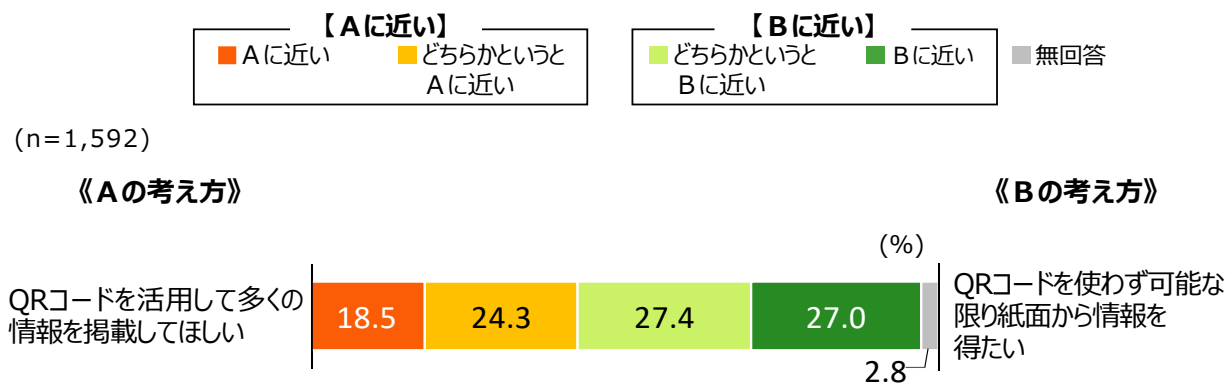
【図表 27】「市政だより」についての考え①



- ② A : QRコードを活用して多くの情報を掲載してほしい
- B : QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい

【Bに近い】が54.4%と、「QRコードを使わず可能な限り紙面から情報を得たい」という考え方に近いと回答した割合の方がやや高かった。

【図表 28】「市政だより」についての考え②



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

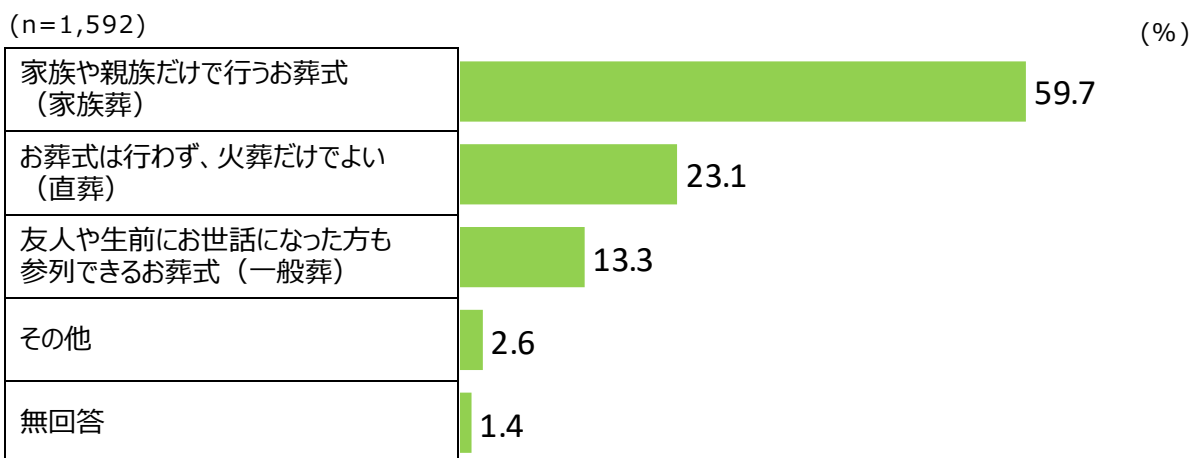
## 8 これからのお葬式のあり方や火葬後の灰等の取り扱いについて

### 1 希望するお葬式の形態

問 20. お葬式には個々のお考えや宗教によってさまざまな形態があります。  
あなたは、ご自身が亡くなった後のお葬式はどのような形にすることを希望しますか。

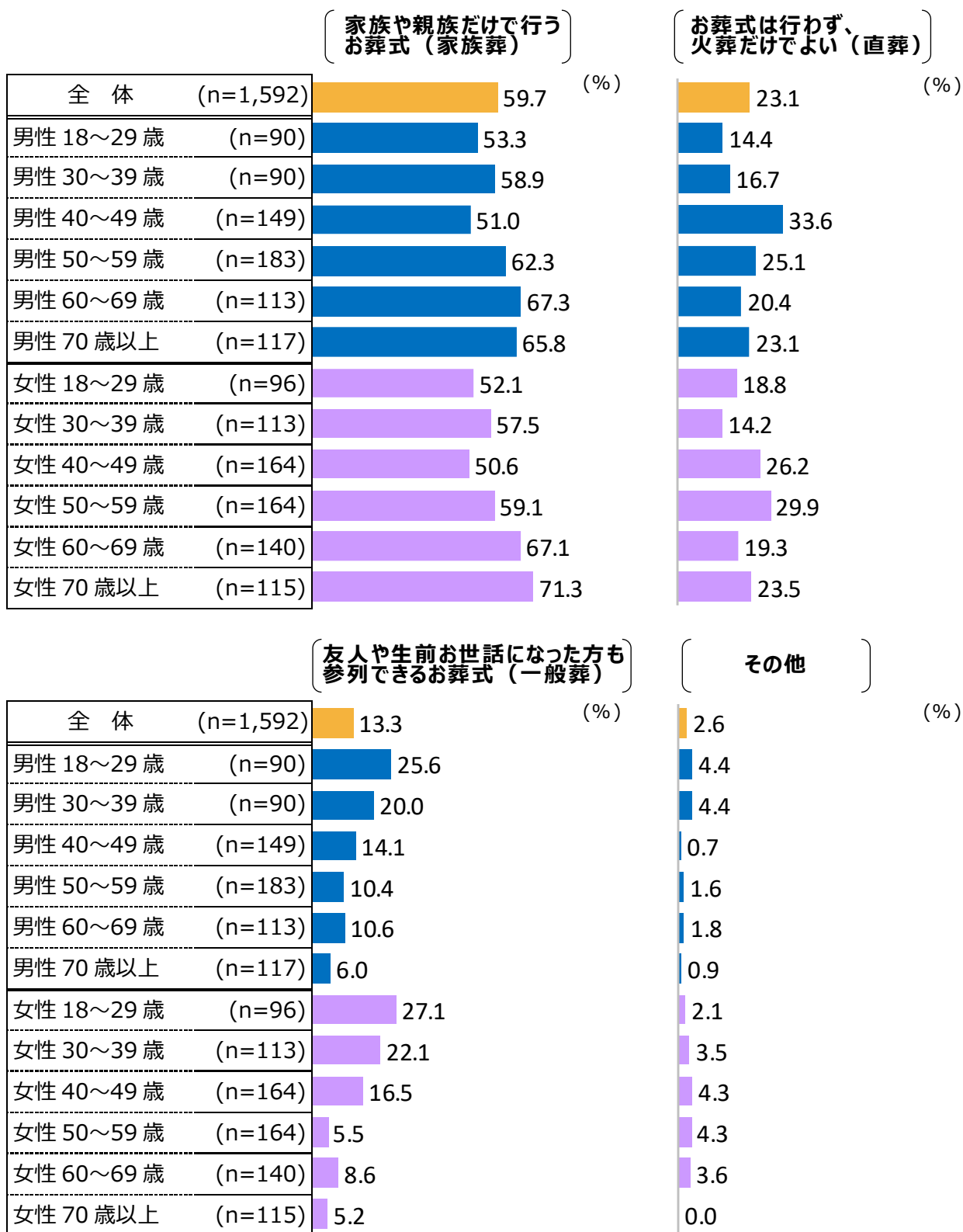
「家族や親族だけで行うお葬式（家族葬）」（59.7%）が最も高く、次いで「お葬式は行わず、火葬だけでよい（直葬）」（23.1%）、「友人や生前にお世話になった方も参列できるお葬式（一般葬）」（13.3%）と続いている。

【図表 29】 希望するお葬式の形態



性／年齢別に見ると、「家族や親族だけで行うお葬式（家族葬）」は男女ともに50歳代以上でおおむね6割を超え、高くなっている。「お葬式は行わず、火葬だけでよい（直葬）」は男性では40歳代（33.6%）が最も高く、女性では50歳代（29.9%）が最も高くなっている。「友人や生前にお世話になった方も参列できるお葬式（一般葬）」は男女ともに18～29歳が最も高く、おおむね年齢が上がるほど割合が低くなっている。

【図表 30】 希望するお葬式の形態（性／年齢別）



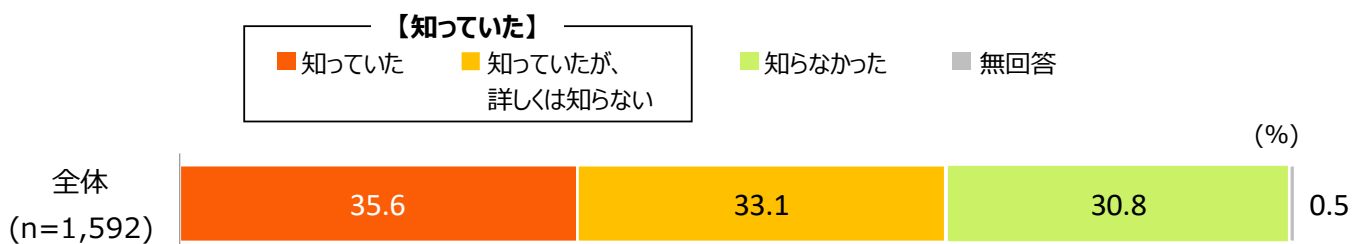
## 2 残骨灰について

問 21. 火葬を行うと、収骨していただく御遺骨の他に、棺や棺に納められた品物等を由来とする灰や収骨されなかった小さな御遺骨等が残ります。この灰等（「残骨灰」といいます）についてうかがいます。

### ① 火葬の後、残骨灰が残ることを知っていますか

「知っていた」（35.6%）と「知っていたが、詳しくは知らない」（33.1%）を合わせた【知っていた】は68.7%となっている。

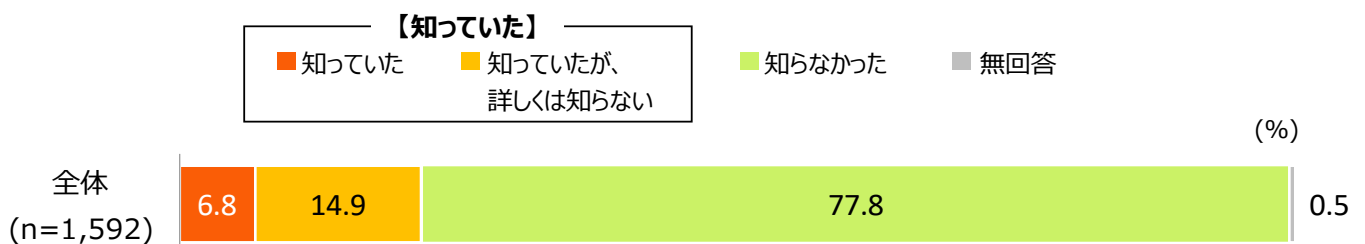
【図表 31】 火葬の後、残骨灰が残ることの認知状況



### ② 残骨灰には、有害物質が含まれていることを知っていますか

「知らなかった」が77.8%、「知っていた」（6.8%）と「知っていたが、詳しくは知らない」（14.9%）を合わせた【知っていた】は21.7%となっている。

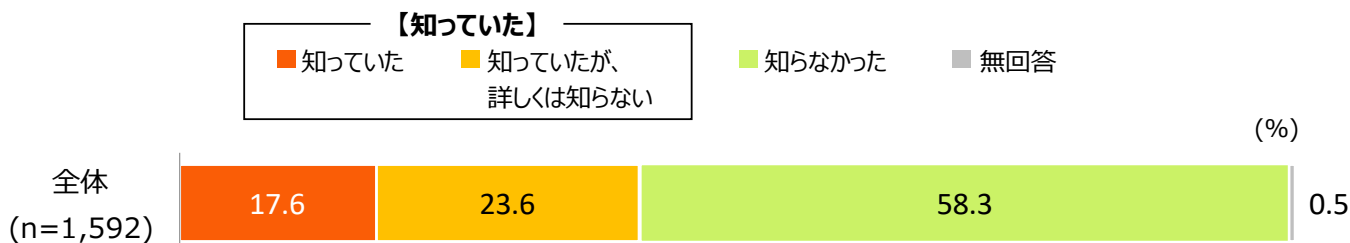
【図表 32】 残骨灰に有害物質が含まれていることの認知状況



**③ 残骨灰には、貴金属等の有価物が含まれていることを知っていますか**

「知らなかった」が 58.3%、「知っていた」(17.6%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(23.6%)を合わせた【知っていた】は 41.2%となっている。

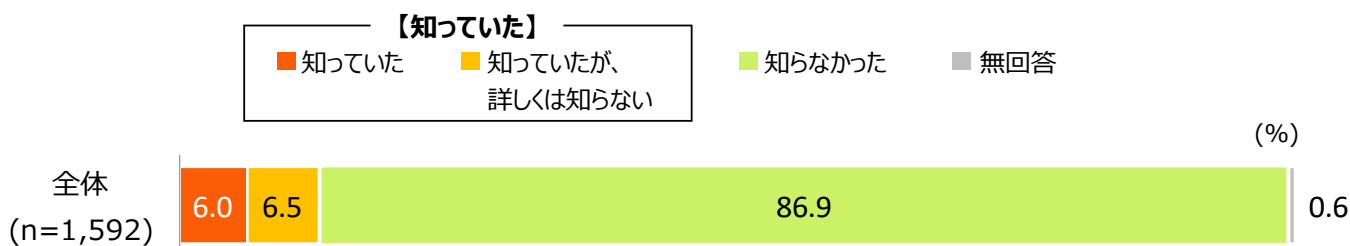
【図表 33】 残骨灰に貴金属等の有価物が含まれていることの認知状況



**④ 他都市では、残骨灰を売却する等の取り組みを行い、自治体の財源としている例があることを知っていますか**

「知らなかった」が 86.9%、「知っていた」(6.0%)と「知っていたが、詳しくは知らない」(6.5%)を合わせた【知っていた】は 12.5%となっている。

【図表 34】 残骨灰を売却し、自治体の財源としている例があることの認知状況

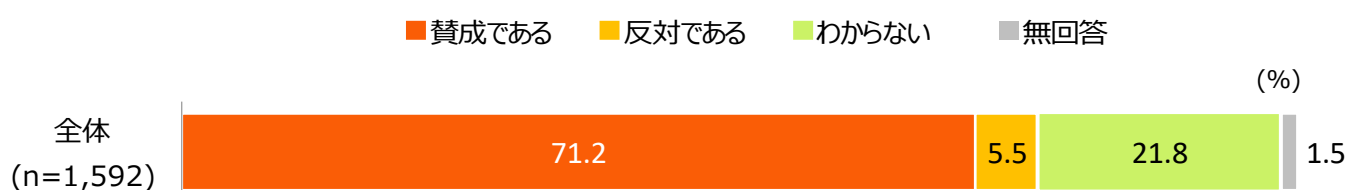


### 3 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否

問 22. 川崎市では残骨灰について、外部の業者に委託し、残骨灰に含まれる御遺骨については埋葬、供養したうえで、それ以外の灰は有害物質を除去して処分しています。あなたは川崎市が他都市のように残骨灰を業者に売却し、残骨灰に含まれる御遺骨を埋葬、供養したうえで、収益を葬祭場等の運営に役立てることについてどう思いますか。

「賛成である」が71.2%、「わからない」が21.8%、「反対である」が5.5%となっている。

【図表 35】 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否

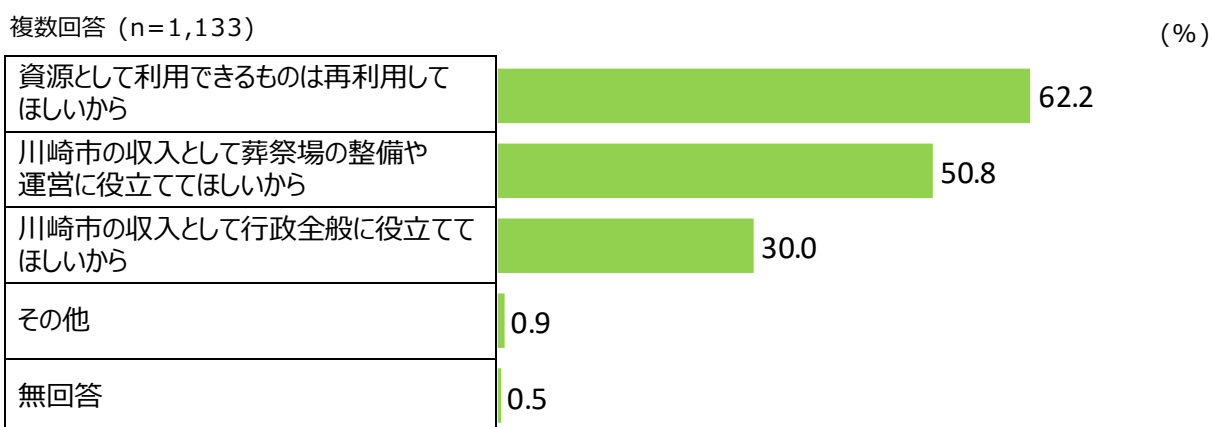


### 4 残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることの賛否の理由

問 22-1. 賛成の理由として、あなたの意見に近いと思うものを選んでください。

残骨灰による収益を葬祭場等の運営に役立てることに「賛成である」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「資源として利用できるものは再利用してほしいから」(62.2%)が最も高く、次いで「川崎市の収入として葬祭場の整備や運営に役立ててほしいから」(50.8%)、「川崎市の収入として行政全般に役立ててほしいから」(30.0%)と続いている。

【図表 36】 残骨灰の収益化に賛成の理由 (複数回答)



令和7(2025)年度 かわさき市民アンケート概要版  
令和8年3月発行

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地  
電話 044-200-2148 (直通) FAX 044-200-0401